

臨床研究へのご協力をお願い

東京医科大学茨城医療センター耳鼻咽喉科、東京医科大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科では、下記の臨床研究を東京医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、学長の許可のもと実施いたしますので、研究の趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

この研究の実施にあたっては新たな負担(費用や検査など)は一切ありません。また個人が特定されることのないように個人のプライバシーは保護します。

この研究の計画や研究の方法について詳しくお知りになりたい場合や、この研究にカルテ情報を利用することを了解いただけない場合などは、下記の「問い合わせ先」へご連絡ください。不参加のお申し出があった場合も、診療上の不利益が生じることはありません。ご連絡がない場合には、ご同意をいただいたものとして研究を実施させていただきます。

[研究名称]

釣藤散が有効なめまいの特徴の検討

[研究の背景]

めまいやふらつきは、日常的にも時折経験する症状です。原因は三半規管、脳、貧血、精神的なもの、など数多くあり、原因がわからないことも多いです。そのため、通常のお薬では治療に限界があり、漢方薬を使用することもあります。めまいに対する漢方薬としては、苓桂朮甘湯、五苓散、半夏白朮天麻湯、真武湯などがよく使用されます。しかし、これらを使用しても症状が改善しないことがあります。

釣藤散という漢方薬は、古くから高血圧による頭痛に用いられてきました。この釣藤散には、脳の循環を改善させる作用があることがわかっています。原因不明のめまいの中には、脳の循環不全が原因となっているものもあると言われており、実際にこの釣藤散がめまいに効くことも経験します。しかしながら、釣藤散は日常のめまい診療では候補に挙げられていないのが現状です。

今回私たちは、めまい症状に釣藤散を使用した症例を集め、釣藤散が有効となりやすい特徴を探します。これにより、釣藤散がめまい治療の候補の一つとなり、治療可能なめまいの症例が増えることを目標としております。

[研究の目的]

診療録を用いて、疾患の頻度や分布、臨床的な特性及び疾患の診断法・治療・その他の治療の効果・安全性等に関して適切な解析を行うことにより、新たな診断法・治療法・予防法等を検討する資料とすること、他の方法で収集が困難な情報も含めて解析することで、疾病

の予後や生活の質の改善、または健康の維持・増進に資する知見を得ることを目的としています。

[研究の方法]

対象となる方

東京医科大学茨城医療センター耳鼻咽喉科で、めまい症状に対して釣藤散を使用した方
2016年10月1日～2021年2月28日の間に投与開始した方

研究期間

研究許可日 ～ 2024年4月1日

利用するカルテ情報

- 1)年齢、性別などの基本情報
- 2)既往歴(特に高血圧)
- 3)めまいに対する診断名
- 4)眼振所見の有無
- 5)めまいの性状(回転性か浮動性か)、および頭位変換や頸部回旋など増悪因子の有無
- 6)耳鳴りの有無
- 7)頭痛の有無、性状
- 8)肩こりや首のこりの有無
- 9)釣藤散の投与量・期間、およびめまい治療に併用した薬剤

これらのカルテ情報を用いて解析を行います。

情報の管理

情報は匿名化を行って、直ちに個人が判別できる情報は含まれないよう加工されます。匿名化された情報から研究対象者を識別できる対応表は、研究責任者の指示に基づき施錠された場所またはパスワードで保護された電子情報として保管されます。保管期限は研究終了または論文公表から5年間です。

情報管理者： 東京医科大学茨城医療センター耳鼻咽喉科 平澤 一浩

[研究組織]

研究責任者

東京医科大学茨城医療センター耳鼻咽喉科 講師 平澤 一浩 (研究統括)

研究分担者

東京医科大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任教授 塚原 清彰 (研究指導)

東京医科大学茨城医療センター耳鼻咽喉科 教授 大塚 康司 (研究指導)

助教 千葉 裕人 (データ収集と整理)

後期臨床研修医 吉野 高一朗 (データ収集と整理)

[問い合わせ先]

茨城県稲敷郡阿見町中央 3-20-1

東京医科大学茨城医療センター耳鼻咽喉科 平澤一浩

電話番号(代表): 029-887-1161